



大洲校だより



柏崎市立大洲小学校 令和5年9月5日号

今の自分が明日の自分をつくる

校長 牧 匡尚

夏休み期間中に、様々なスポーツの話題が報道されました。7月・8月に主なものだけでも世界水泳選手権、世界トライアスロン、女子サッカーワールドカップ、フェンシング世界選手権、アーチェリー世界選手権、8月にはスポーツクライミング世界選手権、世界選手権自転車競技、セーリング世界選手権、世界射撃選手権、世界陸上選手権、世界新体操選手権、世界バドミントン選手権、カヌースプリント、男子バスケットボール・ワールドカップが開催されました。大会に出場する選手は、情熱や時間などを費やし、自己実現に向けて努力を積み重ねてきたことでしょう。

スポーツにはルールがあります。得点、記録、階級などがあります。ルールに最適化した選手やチームが勝利を引き寄せます。これが近代スポーツの大原則の一つです。選手は、ルールの中で得点や記録が伸びるように練習を重ねます。

練習の仕方は、多岐にわたります。年々新しい指導方法が開発されます。苦しい事を乗り越えることがよいとされたこともありましたが、楽しむ中で勝利結果を出すことがよいとされる場合もあります。社会の要請やスポーツ観によって色々あってよいと思います。

色々あってよいと思う中、共通することがあります。1つ目は、よいことを積み重ねることです。シュートによって得点を競うスポーツであれば、シュート練習は、シュートを入れる体験を積み重ねることが大切です。2つ目は、よくないことをしないということです。シュートが入らない場合は「悪い」プレーを一つ積み重ねるわけですから、次は入るように修正することです。

このように、よいことをすれば、近い将来よいことが現実となって起きる。これは、宇宙のルールと言っても過言ではありません。同様に悪いことをすれば、近い将来悪いことが起きる。だから「悪い」ことをしないで、よいことをする。

このことは、学校教育の全てに亘ります。スポーツや勉強は「お手本」を見る、真似る。生き方は、大人を手本にする。大人は、子どもができない事に寛容になる。その姿を見て子どもは学ぶ。子どもたちが学校で仲間と生活し、本当になかよく・本当にかしこくなり、大人になったら今の学級、今の大洲小学校みたいな社会をつくりたいと感じられるそのような学校にしていきたいと考えています。

10月のあげほ祭りは、150周年記念としてアルフォーレで行います。先日は職員が会場を視察してきました。本当になかよく・本当にかしこい子どもたちの姿を見ていただきたいと願っています。そのために、毎日がシアターだと思って学校生活を過ごしていけるよう尽力いたします。地域のみなさま、お気づきのことがあればどうぞ教えて下さい。